

# Of Weddings, Marriage, and Happily Never After

二人は結婚し、いつまでも幸せに暮らさなかった

アンディ美湖

初めはむしろかわいらしく始まる。チャペルで人生最高の日のはず。しかし、お父さんは緊張して足がもつれ、額にひや汗を流しながら、バージンロードをエスコート。一方、花嫁花婿は、思い巡らす。「もうすぐ両親、上司や友達、しかもキリスト教の神の前でキスをするんだ」と。臆病者は握手ですませてしまうが。かつて私が司式をしたある花婿は、キスをミス。キスは花嫁の鼻に。一同は大笑い。彼は焼きそばの上の紅しょうがの色になってしまった。多くのカップルはパイプオルガンの後奏でホッとして式場を去り、披露宴にむかう男性達は、これも紅しょうがの色になる。

こんな風景は、毎週、毎月、毎年、次から次へと起こる。全国で 1,358 件以上、少なくとも 2007 年はそうだった。4 年前、私は『日本がキリスト教を選ぶ日！』というタイトルの記事を書き、世界の新聞に載った。その頃、リクルートの情報誌『ゼクシィ』は、約 70% の結婚式は、キリスト教スタイルだとレポートした。70 年代初期には、日本で 80% の結婚式は神道スタイルであったことを考えると驚くべきことだ。私はこの現象は減少すると思っていた。特に、無宗教の結婚式の人気がでてきていたから。しかし、そうではなかった。トレンドは今も変わらない。2007 年 10 月リクルート社は日本の結婚式の少なくとも 70% は、キリスト教スタイルだと確認した。

火付け役となったのは、1975 年頃、東京京王プラザホテルがチャペルを建設し、セレブが先頭を切ったことだ。今や 1 年でおおよそ 51,000、1 ヶ月 4,000 以上のチャペルウェディングが執り行われる。その参列者は、毎週の教会礼拝出席者をはるかに超えるといわれている。牧師は、このことで 2 つに意見が分かれる。チャペルウェディングに賛同する人とそうでない人と。どちらも正当な見解がある。賛成側のある東京の牧師は、イエスキリストの愛と福音を、結婚式を通して出来るだけ多くの人々に分かち合うことを目的に、クリスチャンブライダルミッションを設立した。この団体は、全国に 3000 人の司式者、音楽家、声楽家を送った。反対派の牧師たちが冷たい目でみるなかで。

私がチャペルウェディングに関わりはじめたのは、崇高な目的からではなかったことを告白する。私のミニストリーアカウントが赤字だったからだ。(そらみろ！といわれるかもしれない) “罪に満ちた” 動機でも、何年か結婚式をするうちに負債がなくなった。しかしそれだけではない。結婚式を通して、その市の人口 25 万人中、10 人に 1 人にキリストの愛を面と向かって語ることができたのだ。何の苦労もなく。異教徒がチャペルを建て、会場に人を集め、説教してほしいと懇願する。確かにこの群集が日曜礼拝に押し寄せるわけではない。けれど大量に種まきする機会であったことに、啞然とする。実際、救われた人々も少なくない。ある人はキャサリン教会に電話した。私が結婚式をしていたチャペルだ。電話帳で調べていくつもの教会に電話し、このチャペルの受付の人が一番親切に受け答え

をしたとのこと。牧師でもない未信者の受付の人が！（痛！）長い話を短くすると、彼女は本当の教会につながり、去年の秋洗礼を受けた。

さて、こういった“クリスチャン・イベント”をどう考えたらいいだろう。それは、それぞれが決定するしかないだろうが。賛成側の方は、是非4月出版予定の、結婚伝道用DVD、「Love Like No Other これほどの愛はない」（日本キャンパス・クルセード）を用いてください。

今日の結婚の様子は？ここ5年で去年初めて、結婚数が増えた。しかし、結婚年齢は男性30歳、女性28歳と遅くなっている。東京人はさらに晩婚で、男性34歳、女性32歳だ。クリスマスケーキ（女性25歳までに）、年越しそば（男性31歳までに）は昔のこと。どちらにしても今日、適切な人に巡り会うのはとても難しい。多くの人は出会いを求めている。結婚の15%は、お見合いで始まり、ウェブサイトをとおしての出会いもかなりあるのだろう。そして、結婚の動機は？88.6%は恋愛結婚ということだ。（戦前は、約70%がお見合い結婚）

すべてが愛で始まるのに、何かが起ってしまう。日本は、大体どこよりもセックスレス夫婦、売春問題、性の不満が蔓延している。バイエル製薬会社の調査によると、34%の夫婦が1年以上夫婦生活をしていない。おかしなことに、最も一般的な理由は単に、『面倒くさい』からだ。でもこれは、若者の問題だけではない。55歳以上の夫の73%は、セックスレス夫婦で、そのうち42%が結婚外でセックスしているという。

デュレックス社の調査で、結婚の満足度は、日本は最低から2番目（1番は中国）であった。性的刺激が氾濫しているこの国で、90%の日本人が性生活の刺激が足りないと言っている。そして38%の日本人が自慰を毎週している。

これらすべてが様々な障害を引き起こしている。信じがたいことだが、雑誌Spa!では、およそ70%の青年は性交時に射精ができないという。その記事は、東邦大学医療センター大森病院の泌尿器科医の言葉を引用している。「それがこのクリニックに来る患者の中で、私が対応する最も一般的な症状である」と。また、結婚生活は、奇妙な形になってきている。多くの人が家を建てる時、主寝室を2つにすることを選ぶ。最近三井ホームは、30%の建築は、主寝室2つタイプだと発表した。夫婦は互いを避け、別々に寝て、互いを兄弟姉妹のように考え、自分の熱望を欺いているので、出生率はどんどん下がるのは当然だ。現在は出生率1.28%、東京は0.9%で、国家的危機状態である。（[www.drmeeko.net](http://www.drmeeko.net) で日本の傾向と話題 — 大転換とチャンスの到来を参照してください。）

日本における離婚率は、1965年以来、ほとんど毎年更新している。厚生労働省によると、2006年は、10年間で離婚率が27%上がったという。しかし、30年以上の夫婦は、4倍になった。今日離婚はおよそ30%。しかし、ここ5年奇妙な現象が起っている。このすべての不満足の中かで、離婚率がゆるやかになり、しかも減少しているのである。興味深いこ

とに、この現象は、2003年6月に、厚生年金の分割制度が通過し、妻も元夫の退職金の半分を受けることができるようになることが決まってからである。その法律は2008年4月に遂行されるので、その時に離婚率が爆発するのではないかと、ほとんどの理論家たちは懸念している。

しかし、物事はもっと複雑である。あと数年で団塊の世代の何百万人が退職年齢になる。この世代は、家庭生活に貢献してこなかった世代である。妻からは疎外され、友人も数少ない。「経済協力開発機構」OECDの調査では、日本人男性は世界で最も孤独、16%の男性は職場以外の友人や同僚とほとんど交流がない) 厳しい規制の中で何時間も働くことに慣れ、彼らは『指示を待つ世代』である。退職したら指示はない。ストレスと怒り、家庭における混乱は、自殺や離婚率の増加につながる事が考えられる。

多くの人は人生において最も大切なことをなおざりにしている。愛、家族、友情、健全さを。今晚も、真夜中2時、4人に1人はテレビを見、数え切れない人々がインターネットに向かっている。かつて愛した人の腕や安らかな睡眠を避けて。しかし希望が無いわけではない。過去において「別れさせ屋」が注目されたが、「復縁屋」が追いつき始めた。そのひとつ、女性秘密探偵社は、2005年には110件、2006年は430件、2007年は750件の依頼があったと報告している。

あまり知られていないが、1月31日は日本で「愛妻の日」である。この伝統は、日本武尊(ヤマトタケルノミコト)が、奥さんの弟橘姫(オトタチバナヒメ)の訃報を旅先で聞いて、大声で人目もはばからず「吾が妻恋し・・・」と叫んだことに由来している。現在はキャベツ畑である群馬県吾妻郡嬭恋村は、それにちなんで「ワガツマコイシ村」と名前がつけられている。この伝統を広めようとしている愛妻家たちが、去年は群馬のキャベツ畑で愛を叫んだ。今年の日比谷公園の噴水前にステージをつくった。このイベントに多数のメディアが参列した。参加者は一列に並び、順番が来ると、ステージに立って妻をどれほど愛しているかを叫ぶ。これは、崇高で、クレージーな、心温まるイベントだ。私はこの機会を逃せず、凍てつく晩に、世界最大都市で、溢れるTVカメラの前、ステージに登る勇敢な戦士たちに加わった。何人が叫んだか? 30人。(数週間後の東京マラソンには3万人が溢れたが。) その晩、フジテレビのレポーターが家族の反応を取材するために家まで来た。たぶん妻の純子は、面白かったと思うが、子どもたちはひどくショックを受けた。彼らにとって最悪なことは、このニュースが、全国に放映され、近所の人、学校の先生、友達にみられたことだった。

どうみても、日本の夫婦は長い道のりをいかねばならない。多くの悲惨な状況があるのは確かだ。しかし、キャベツ畑や凍てつくステージで愛を叫ぶため立ち上がるクレージーな奴がいることが希望である。彼らに神の祝福あれ。どんなに人数が少なくとも祝福あれ。おまけに他の、つまり全てのカップルにも神の祝福あれ。